

4年間の一般質問まとめ

- ◆平成23年第3回定例会(2011年6月) ①公的機関の「事業は何か、何であるべきか」 ②世代間格差 ③夏休み疎開
- ◆平成23年第4回定例会(2011年9月) ①イベントの取捨選択と再編成 ②放射線と電磁波の測定公開 ③疎開受入れ体制 ④住民福祉の増進の優先順位
- ◆平成23年第5回定例会(2011年12月) 民意を確認するための適切な行政手続き
- ◆平成24年第1回(2012年3月) ①持続可能な社会 ②放射性物質の子どもへの影響 ③地域保健福祉計画
- ◆平成24年第2回定例会(2012年6月) ①町民ひとりひとりの「知」の育成 ②子どもに関わるコミュニティデザイン
- ◆平成24年第3回定例会(2012年9月) ①子育て支援の総合施策 ②環境未来図書館 ③自治基本条例の遵守
- ◆平成25年第3回定例会(2013年9月) ①高齢者のいきがづくりと子どもの遊び ②地域課題解決型の生涯学習支援と小さな仕事づくり ③幼児センター、学校給食での地産地消率向上 ④気候変動時代の防災対策
- ◆平成25年第4回定例会(2013年12月) ①抜本的な少子化対策 ②子どもたちの能力開花支援 ③福祉サービスの総合職配置
- ◆平成26年第2回定例会(2014年6月) 下川町森林バイオマス発電事業
- ◆平成26年第4回定例会(2014年12月) 安齋町政4期16年の検証

くなす(奈須) 憲一郎のプロフィール

- ◆1973年5月、愛知県名古屋生まれ
- ◆1999年3月、北海道大学大学院農学研究科修士課程林学専攻を修了し、修士論文『地域の内発的発展における「新住民」の果たす役割—北海道下川町を事例として—』の調査を通じてご縁をいただいた下川町役場に就職
- ◆2005年4月、合併問題、財政難などで自治の根幹がゆらぐ中で、やはり下川が下川らしく続けるには経済活動が必要だと思い、役場を退職して起業を決意
- ◆2005年11月、特定非営利活動法人(NPO法人) 森の生活を設立、代表就任
- ◆2011年4月下川町議会議員選挙無投票当選
- ◆2013年6月 eggplant (個人事業) 開業、ボードゲームの創作などを行う

家族：妻と2女(ほぼ9歳と3歳)

趣味：ボードゲーム

座右の銘：罪を憎んで人を憎まず

<事務所> 北海道上川郡下川町錦町209番地

<携帯電話> 090-6219-3798

<メールアドレス> nasuken16@gmail.com

<ブログ> <http://ameblo.jp/nasuken16/>

* 全ての一般質問の事前通告内容と議事録をブログに掲載していますので、ぜひご覧下さい



次の世代に どんな下川を 残したいですか?



なす 奈須 憲一郎



活動報告書

次の世代にどんな下川を残したいですか？

この問いかけから始まった私の政治活動は、無投票当選を経てあつという間に任期 4 年間で終えようとしています。このリーフレットはそのまとめの報告書的な位置づけです。

子育て世代の代弁を

任期を通じて 2 人の子どもの父親・当事者として子育て世代の代弁をしてきたつもりです。

抜本的な少子化対策、子育て支援の総合施策、産後ケア・病児保育・父親の子育て参加の必要性、子どもの食の安全性、子どもたちの能力開花支援など、時には大局から、時には細部に渡り、幅広く質問や提案をしてきました。

結果的に、保育料が下がったり、幼児センター、学校給食での地産地消率が向上するなど、子育て環境に改善が見られました。

町民会館改修に対し

一番力を注いだのは、町民会館改修に対してです。図書室の上に子どもたちが運動する児童室があつては騒々しいのではないかな等の問題点が町民から指摘されていること、町民との対話が不足していること、様々な課題がありました。

そこで、町民会館改修ありきではなく、子どもに関わるコミュニティデザインを空間的にも時間的にも全体的に見渡した上で再検討してはどうかと具体案も含めて提案しました。

結局、行政内部の叩き台から大きな変更が加えら

れることなく改修されましたが、最終段階で、児童室は日曜休室という条例案に対し、日曜に保護者が働いている家庭もあること、日曜にも子どもの遊び場が必要であることを主張した結果、他の議員の賛同も得られ、現在の月に 2 日の日曜開室になりました。

この実現にあたり、様々な条例の「町長が特に必要と認めるとき」という条文は、利用を制限するためにあるのではなく、幅広い利用を促すためにある、という解釈が採用され、今後にもつながる一歩でした。

右から左に通すだけなら議員はいらない

町民の方々から「出された議案を右から左に通すだけなら議員はいらない」とお叱りを受けることもありましたが、認め難い議案に対しては、その部分を削ることも検討してきました。

そして、旧駅前のにぎわいの創出事業に対しては、様々な点に不備が見られたことから、関連する予算を削除した修正案を提出しました。残念ながら一歩及びみませんでした。町政への牽制にはなっていないと思っています。

森林バイオマス発電に対し

任期最後の 4 年目には、町の将来を左右する森林バイオマス発電に対し、国内第一人者の熊崎先生をお招きして学習会を開催し、町民との意見交換を行うなど、議会全体で取り組み、私が代表する形で一般質問を行いました。

その後、危惧する声が多かった 5000kw という大規



模での発電計画から、規模を縮小して熱電併給へと方針の転換がありました。

安齋町政 4 期 16 年の検証

平成 26 年第 4 回定例会での一般質問「安齋町政 4 期 16 年の検証」は、次期町政に向けて町民のみなさんに判断材料を提供すべく議員としての職責を全うしようとした結果です。

ご興味をお持ちの方は議事録が公開されていますので、役場・公民館・ハピネスや町のホームページ、私のブログからご一読いただければ幸いです。

ブログ → <http://ameblo.jp/nasuken16/>

積み残した課題

アンケート結果でも 7 割以上の利用ニーズがある「病児・病後児保育」への対応が先送りされるなど、子育て支援は依然として町政上の優先順位が低いのが実態です。「子どもなくして未来なし」をもっと主張しなければなりません。

最近、環境未来都市の成果として転入者の増加が PR されていますが、そうした新しい層の特長やニーズを把握して施策に反映しているのか、単なる数字として扱っていないか、今後の重要課題です。

町民の方からも要望があった議会生中継は、技術的・費用的にもハードルが低い手法での提案をしましたが、実現させることができませんでした。

町政の主役は町民ひとりひとり

ぜひみなさんの声をお聞かせください。

